

伝えたい

まちの遺産

木ノ芽峠城塞群

— 北陸道の関門 —

木ノ芽峠一帯は敦賀から今庄・府中へ抜ける北陸道の関門にあたり、源平の合戦、南北朝期の動乱、戦国時代・一向一揆の争乱における戦場にもなり、古くから越前国の要害の地として重要視されてきました。

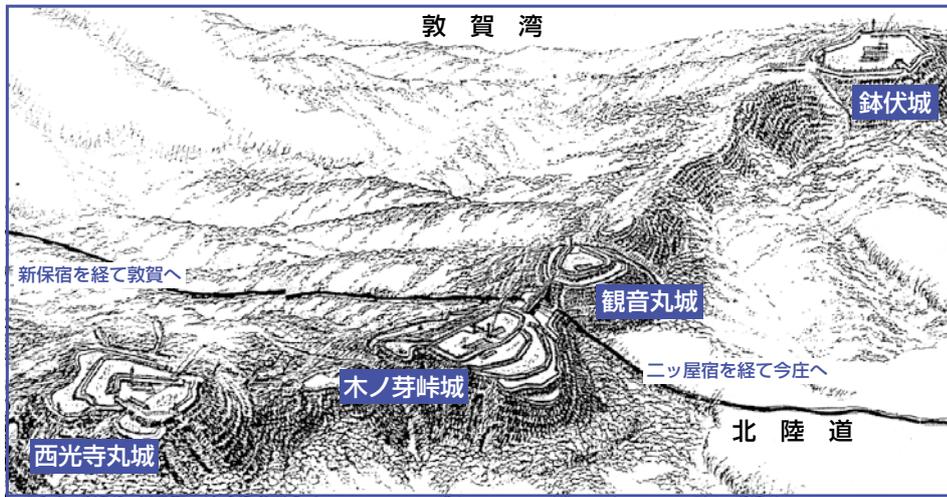
木ノ芽峠一帯の尾根筋には、鉢伏城(七六二m)、観音丸城(六三〇m)、木ノ芽峠城(六二〇m)、西光寺丸城(六四三m)と呼ばれる四つの城跡が残っており、それぞれ独立した城でありながら峠の防御線として連携を持った城塞群として構築されています。

四つの城のうち鉢伏城と木ノ芽峠城は、記録に残っていないものの南北朝期の築城と推定され、現在確認できる城の遺構は戦国時代のもので、観音丸城と西光寺丸城は、天正年間、一向一揆の城として構築されたようです。

城塞群のうち最も大きいのが、三五〇m×一〇〇mの規模を有し、一向一揆勢の本陣にもなった木ノ芽峠城で、十数個の郭を有し、東側尾根筋は壮大な堀切で防備されています。観音丸城は、鉢伏山につながる背後の尾根を堀切で遮断し、砦を土塁で囲み周囲に堀をめぐらせています。西光寺丸城は、木ノ芽峠城の東側に位置する二〇〇m×二二〇mの城で、観音丸城と同様に四方を土塁で囲み、巨大な堀切で背後を防備しています。鉢伏山の山頂の鉢伏城は、城塞群では最も高いとこ

ろに築かれており基本的には詰めめの城として考えられます。

木ノ芽峠城塞群は、越前朝倉氏・織田信長軍・一向一揆勢らによって築城・改修されてきたため複雑な様相をみせていますが、峠の陣城として他に類をみない貴重な城塞群といえます。



木ノ芽峠城塞群イメージ図

食改

みつばちゃん 知恵袋

健康で元気になるためには、腸の流れをよくする必要があります。食物繊維の豊富なゴボウを食べて、体内の悪いものを出し、腸の流れをよくしましょう！

お好みで七味唐辛子をふってピリッとさせてね！



「ゴボウと油揚げの柳川」

《材料(2〜3人分)》

- ゴボウ……………1本
- 油揚げ……………1枚
- 長ネギ……………1本
- 水……………1と1/2カップ
- 昆布……………1枚(1×10cm)
- 醤油……………大さじ2
- みりん……………大さじ2
- 削り節……………1袋(約5g)
- 卵……………2個

《作り方》

- ①ゴボウは4〜5cmの長さに細切りし、さつと水にさらす。
- ②油揚げは短冊に、ネギは薄い小口切りにする。昆布はハサミで細く切る。
- ③フライパンに①のゴボウを入れ弱火で空煎りし、香りがでてきたら、油揚げ、昆布、醤油、みりんを加え、ふたをして中火で煮る。
- ④ゴボウが軟らかくなったら、削り節とネギを加え、ざっと混ぜ、溶いた卵をまわし入れ半熟になるまで火を通す。